

広葉樹植樹のご案内

大台町の山で、広葉樹の森をつくりませんか？

広葉樹は種類が多く、自然林では自然条件に合わせて多様な樹木が棲み分けをして生長しています。そのため自然条件に適した木を選んで、人工的に広葉樹の森を作るのはとても難しいとされています。

私たち宮川森林組合は、常緑樹と落葉樹を組み合わせ、高さ 20 メートルを超える高木から背の低い低木まで、様々な大きさと種類の木が共に生きる、多様性の高い森を作ることができる全国でも数少ない団体です。

広葉樹の森は、そこだけの多様性が高いのではなく、将来的にはそこから鳥や小動物や風が種子を運び、周囲の森の多様性を高めることも期待されています。いわば森の多様性の核ともいえる存在です。

そんな魅力的な広葉樹の森を作ってみませんか？

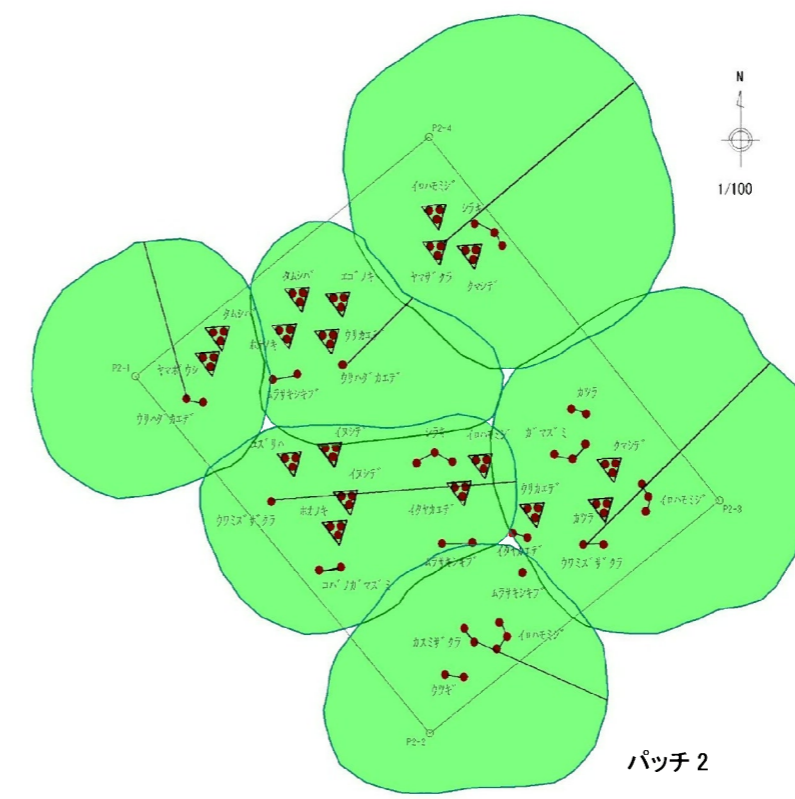
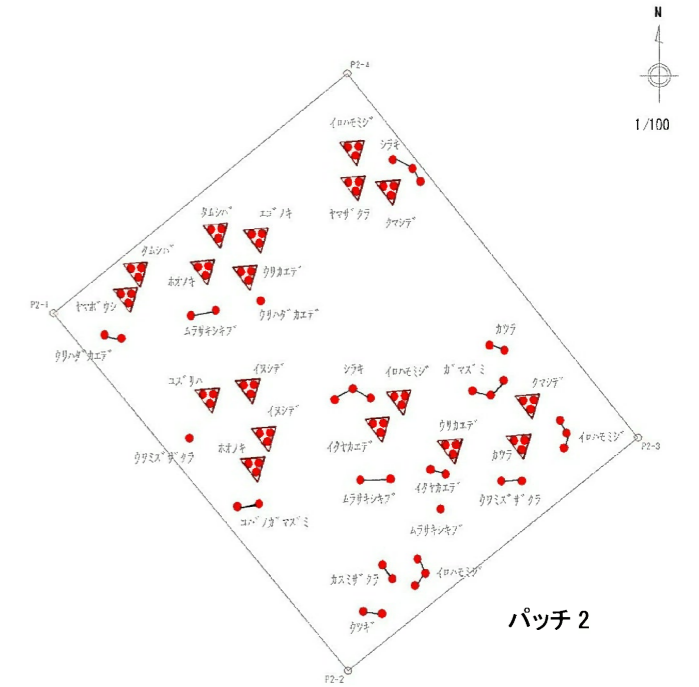
シカ除け用のフェンスで囲まれた 100 m² くらいの小さな区画から植樹することができ、費用は 30 万円程度から作ることができます。

会社の周年事業に、同窓会の記念に、そして結婚や出産の記念に、広葉樹の森を作ってみませんか？

植樹設計例

植樹時

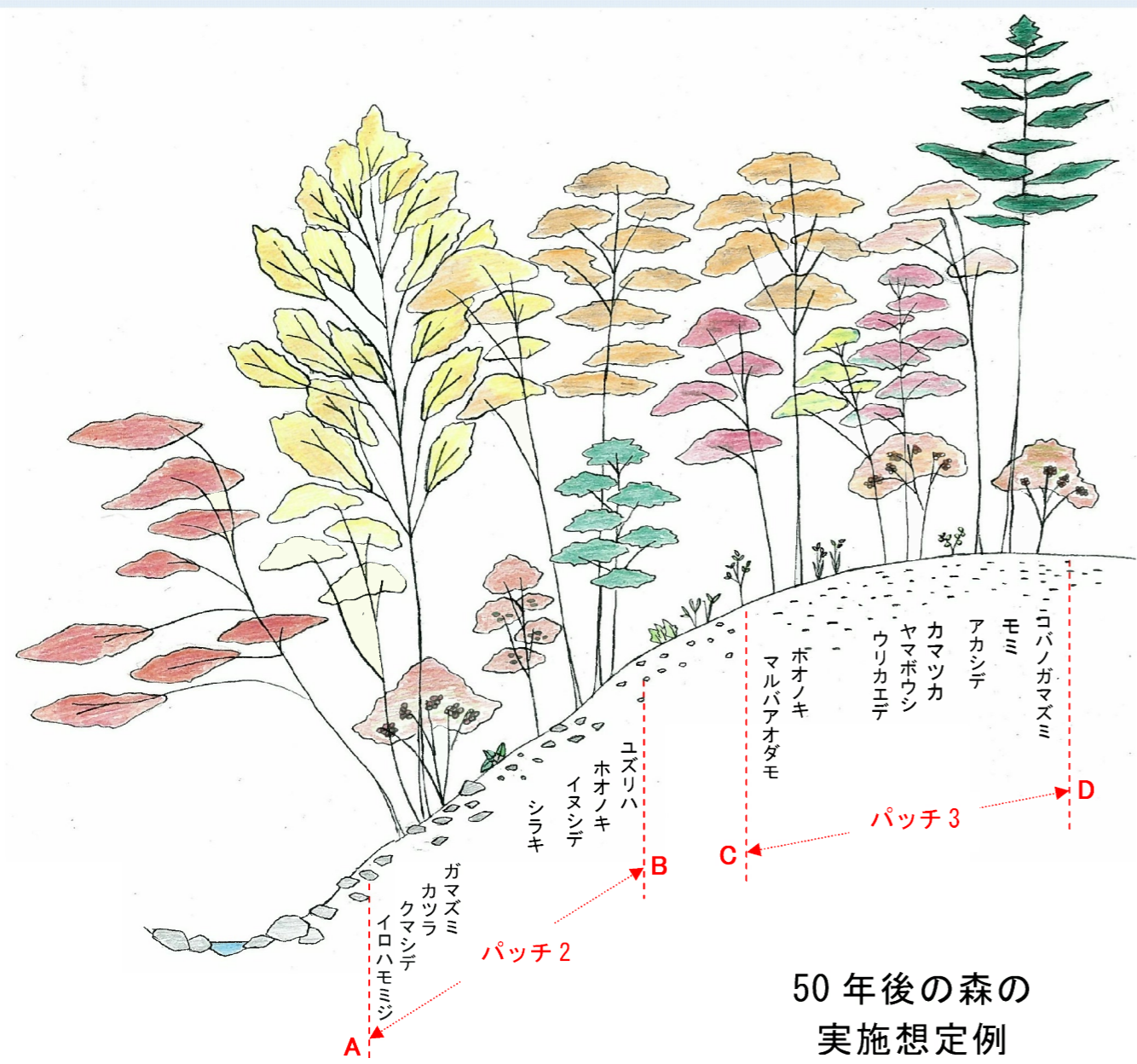
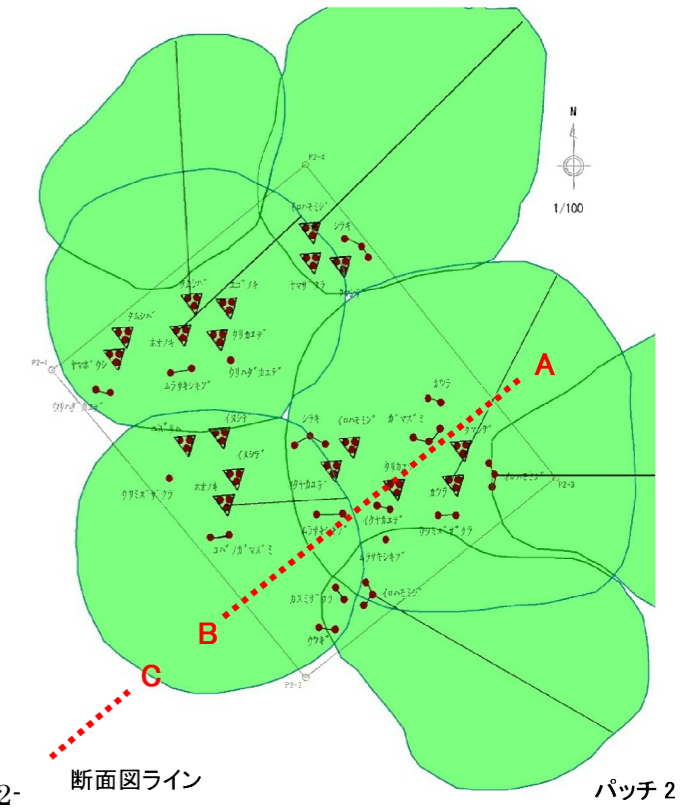
立地に適した樹種を、組み合わせを考えて選びます。均等に規則的にではなく、不規則に植樹します。集中的に植える「巣植え」をすることで、初期の生長を促すことができます。(詳細は「方法」をご覧ください)



ヤマザクラやウミズザクラやウリハダカエデなどが目立ちます。これらは「先駆種」と呼ばれる樹種で、若い森で中心的な役割を果たします。

50 年後

モミ、アカガシ、ホオノキ、カツラなどの自形性※の高木と、イヌシデ、イロハモミジなどの他形性※の高木が中心となり、多様性の高い発達した森林をつくります。これらは「遷移中・後期種」と呼ばれる樹種です。(※印は「方法」の語句の説明をご覧ください)



50 年後の森の実施想定例

方法

立地に適した樹種の選定と組み合わせ

樹木は1本の力で大きくなるのではなく、隣り合う樹木と関係性を持ちながら大きくなっていきます。今回の植樹はこの関係性を大切に植え方を考えています。

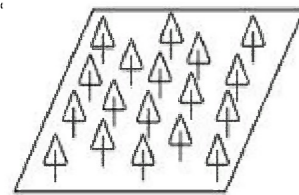
今回植樹する苗木には、すべて役割があります。早く生長するけれど寿命の短い「先駆種」(高木のウリハダカエデ、ウワミズザクラ、低木のムラサキシキブ、ウツギなど)が直射日光や強風を遮り、ゆっくり生長する寿命の長い遷移中・後期種(モミ、アカガシ、ホオノキ、カツラなど)が生育するための環境をつくりま

す。亜高木と呼ばれる高さ 15メートル程度まで大きくなるヤマボウシやクマシデなどと、高さが 6メートル程度までしか大きならない低木のコバノガマズミやマユミなども一緒に植樹します。これによって、高さ方向に様々な樹木が育つ多様性の高い森へと導きます。

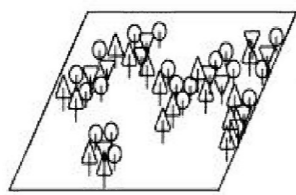
不規則な植え方

今日の植樹では、規則的な植え方をしません。樹木の特性と植樹場所の条件を考えて、不規則に植えていきます。また1本1本植えるのではなく、集中的に植える場所を作っています。

一見でたために植えているようにも見えるかもしれませんが、これは樹木のもつ**自形性**^{※1}と**他形性**^{※2}の性質を見極めて考えた設計によります。この方法によって、自然に近い安定的で持続性の高い森を作ることができます。



スギ・ヒノキの人工林(規則的)



多様性の高い森(不規則)

不規則な植え方

- ・場所の条件にあわせて樹木を選ぶ
- ・異なる性質の樹木を組み合わせる
- ・他の樹木が生育できる場所をつくる

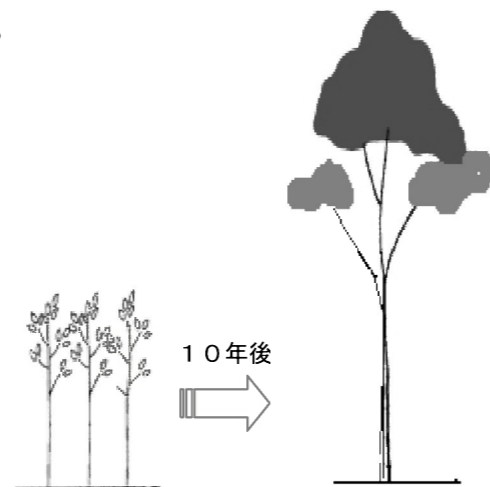
※1 自形性: 周囲の環境にあまり左右されず、まっすぐ上に生長する性質。

※2 他形性: 周囲の環境に合わせて樹形を変えて生長する性質。

巣植えによる初期生長の促進

苗木は、3本1組での植樹を基本とする「巣植え」という植え方をします。巣植えをすると、早く上に伸びようとする性質を発揮させることができます。また微気象条件を緩和し、菌根の共有を図ることもできます。これにより早く樹林化することが可能になります。

巣植えは、大きな苗木を植えるよりも効果が高いと考えられていて、費用も抑えることができます。樹種や木の特徴によっては、巣植えを行わないこともあります。



10年後

